

富山県小矢部市

小白山山麓遺跡・白谷岡ノ城北遺跡

—白谷地区土地改良総合整備事業に伴う発掘調査—

1993

小矢部市教育委員会

富山県小矢部市

# 小白山山麓遺跡・白谷岡ノ城北遺跡

—白谷地区土地改良総合整備事業に伴う発掘調査—

1993

小矢部市教育委員会

## 序

白谷遺跡群は平成元年より白谷地区土地改良事業が施工されることとなり、その工事に先立ち小矢部市教育委員会が平成元年より発掘調査を実施いたしました。当遺跡は昭和54年より昭和60年まで実施された分布調査において発見され、その成果は当該年度発行の調査概報、遺跡地図・台帳（小矢部市教委他 1985）に記載され周知化が図られた。

この白谷遺跡群においては縄文時代草創期の生活跡の検出から始まり律令期・中世期の聚落跡が豊富な遺物とともに検出される等、大きな成果を上げました。

しかしながら得られた資料の多くは現在整理途上にあり、本書に盛込むことができる状況ではありません。本書においては本年度調査区の中からいくつかの遺構を取り上げ、概要を報告することといたします。

最後になりましたが、調査にあたりご協力いただきました地元・土地改良区の方々はじめ関係各位に心から感謝の意を表する次第です。

平成5年3月

小矢部市教育委員会  
教育長 岩峯 敬正

## 例　　言

- 1、本書は平成4年度に小矢部市白谷地区土地改良事業に先立ち実施した、小白山山麓遺跡・白谷岡ノ城北遺跡の本調査の概要報告である。
- 2、調査期間は下記のとおりである。  
　　小白山山麓遺跡：平成4年6月16日～8月20日　白谷岡ノ城北遺跡：平成4年6月16日～10月21日
- 3、調査は、事務局を小矢部市教育委員会内におき、国庫補助並びに県費補助金の交付を受けて小矢部市教育委員会が実施した。
- 4、調査参加者は以下のとおりである。

### 調査担当者

伊藤隆三（小矢部市教育委員会社会教育課文化財係係長）　塙田一成（同 主事）

### 調査作業員

茶木幸作、高瀬友治、高橋正次、山崎三郎、川原達雄、前田安二、立崎政一、藤井進一  
八十島嘉太郎、前田信成、森田敬八、山川勉、岡本正穂、野村三郎、中村勝三  
蟹谷百合子、山田信子（埴生）、吉田渡紀子、河内スミ子、中橋雪子、中田夏子、  
西村不二子、南よし子、久井夏子、八十島昭子、八十島節子、川原きくい、宮本かおり  
瀬戸節子、高田芳子、野沢敏子、本田喜代子、山本悦子、吉田寿子、上山文子、  
上島和子、谷川澄子、青島笑子、山田信子（水落）、坂井久子、高崎みよき、

- 5、調査期間中は地元白谷地区皆様には飲料水等の提供などたいへんお世話になった。  
　　記して厚くお礼申し上げる。
- 6、本書の編集・執筆は、文化財係長伊藤隆三が補佐し、塙田が行った。
- 7、土器の整理にあたっては岸本雅敏氏（富山県教育委員会文化課副主幹）、宮田進一氏（財団法人富山県文化振興財团文化財調査事務所調査第二係長）には貴重なご教示を賜った。
- 9、出土遺物および図面・写真類は小矢部市教育委員会が一括して保管している。

## 目　　次

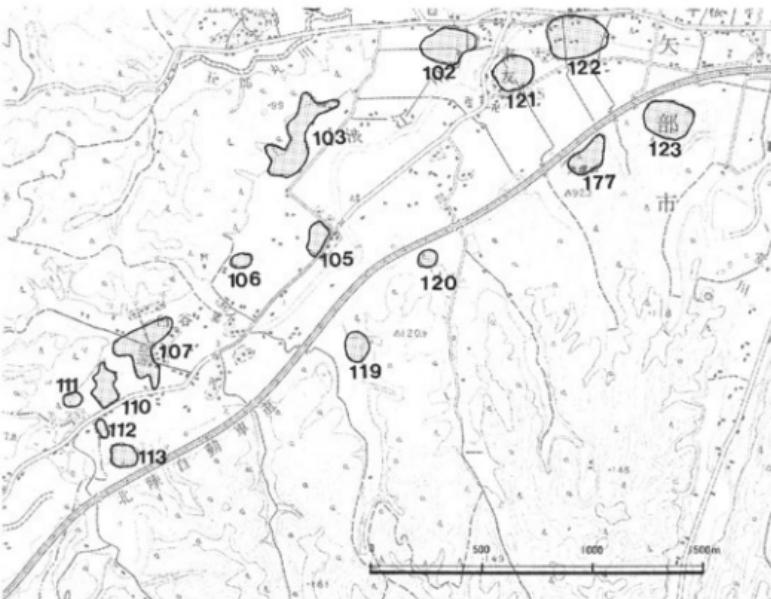
I	遺跡の位置と環境	1
II	調査の経過	5
III	調査の概要	
1	小白山山麓遺跡	7
2	白谷岡ノ城北遺跡	15
図版		

## I 遺跡の位置と環境

富山県の最西端に位置する小矢部市は、南北と西側の三方を砺波山・蟹谷両丘陵に囲まれ、東側は散居村地域として知られる砺波平野が広がり、渋江川・子撫川等を合わせ北流する小矢部川が市域を二分している。この小矢部川左岸から三方の丘陵地にかけての段丘上は砺波地方では最も安定した地域であり、県下でも有数の遺跡密集地帯を現出している。

白谷遺跡群は市域南西部の白谷地区に所在し、小矢部川の支流渋江川の両岸に広がる。一帯は渋江川の両岸に沿って段丘が発達するものの、浸食作用により複雑な地形を形成し、遺跡の多くは標高55m～75mを測る段丘上に立地する。

この白谷遺跡群には白谷岡村遺跡をはじめ多くの縄文時代の遺跡が分布することが知られていたが、平成元年・2年と一帯の試掘調査を行った結果小白山山麓遺跡・白谷岡ノ城北遺跡では新たに奈良・平安～中世期に至るまでの集落の存在が明らかになった。

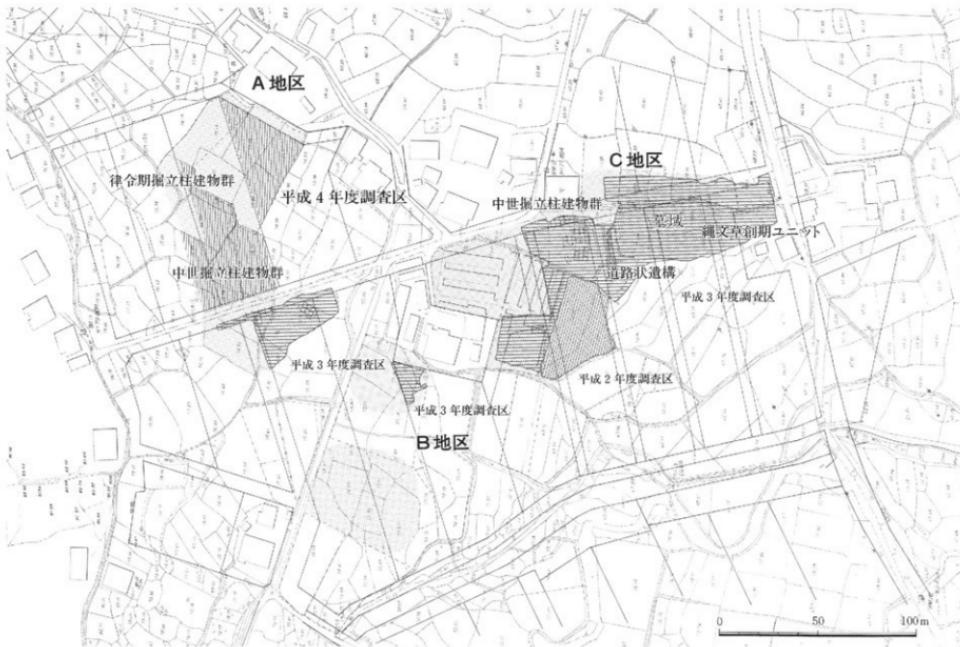


第1図 遺跡の位置と周辺の主な道路

102.向島遺跡 103.川棚新遺跡 105.白谷竹原備1遺跡 106.白谷八幡宮遺跡 107.白谷岡ノ城北遺跡 110.白谷岡村遺跡 111.白谷例分I遺跡 112.白谷例分II遺跡 113.和ヶ原I遺跡 119.小白山山麓遺跡 120.米友南遺跡 121.米友遺跡 122.勝興寺安養坊遺跡 123.平桜遺跡 177.火燒山遺跡



第2図 小白山山麓遺跡調査区位置



第3図 白谷園ノ城北道路調査区位置

## II 調査の経過

今回調査を行った小白山山麓遺跡・白谷岡ノ城北遺跡は、1981・1982年度の分布調査によって発見周知化された。

昭和63年11月に白谷地区のは場整備事業の実施について照会があり、調整協議がもたれた。事業名称を「白谷地区土地改良総合整備事業(区画整理型)」とし、平成元年着手同5年完了、面積54haである。平成元年3月に工事施工対象地を再度分布調査し、各遺跡の位置・範囲を確認し、それをもとに協議を行い平成元年6月・10月に岡ノ城北遺跡A地区と竹屋橋I遺跡の試掘調査を行った。平成2年6月から11月まで白谷岡ノ城北遺跡・白谷岡村遺跡・白谷橋分I遺跡・白谷八幡宮遺跡・小白山山麓遺跡の試掘調査を行い、工事施工範囲内の遺跡範囲の確定を完了した。

また12月には白谷岡ノ城北遺跡C地区内約1,000m<sup>2</sup>について本調査を実施した。

平成3年5月の協議において小白山山麓遺跡・白谷岡ノ城北遺跡A～C地区の保護策を検討し工事施工によって削平せざるをえない部分約6,600m<sup>2</sup>について本調査を行った。

平成4年度は小白山山麓遺跡の削平部分約1,000m<sup>2</sup>と白谷岡ノ城北遺跡A地区約3,200m<sup>2</sup>について本調査を行った。

### 調査日誌抄

#### 小白山山麓遺跡

6月16日	調査区設定
17日	表土剥ぎ始める
26日	SK-1遺構掘り
7月3日	SD-1・2検出
6日	谷部中央にトレンチ設定
15日	谷部黒色土掘り下げ
24日	下部黒色土より遺物出土
31日	谷部(流路)確認のトレンチを中心に入れる
8月3日	流路底より繩文土器出土
6日	遺構掘り下げ
10日	遺構の写真撮影
18日	遺構実測
20日	現場終了

#### 白谷岡ノ城北遺跡

6月16日	調査区設定、表土剥ぎ
7月10日	調査区の側溝を掘る
8月10日	第一調査区遺構面精査
24日	第二調査区遺構面精査
25日	第一調査区遺構掘り下げ始める
9月7日	SK 15・16掘り下げ
24日	第二調査区遺構掘り下げ始める
25日	井戸2基検出
10月1日	土塙掘り下げ 倒木底多い
6日	第二調査区遺構写真撮影
12日	写真撮影・遺物の取り上げ
14日	調査区全景写真撮影
19日	航空測量行う
21日	遺物取り上げ 現場終了



小山山麓遺跡  
(左端小白山)



白谷岡ノ城北遺跡

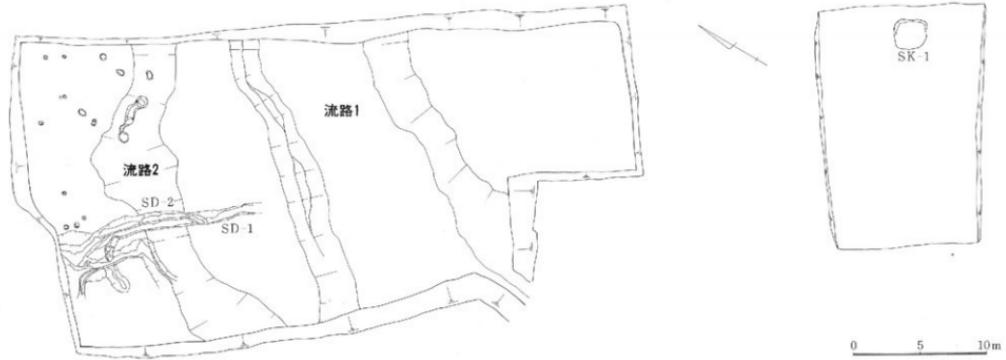


白谷岡ノ城北遺跡

### III 調査の概要

#### 1 小白山山麓遺跡





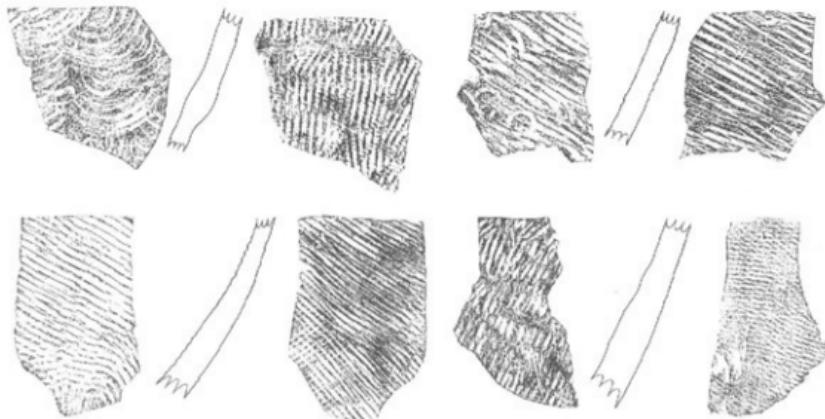
第4図 小白山山麓道路溝全体図

## 1 小白山山麓遺跡の概要

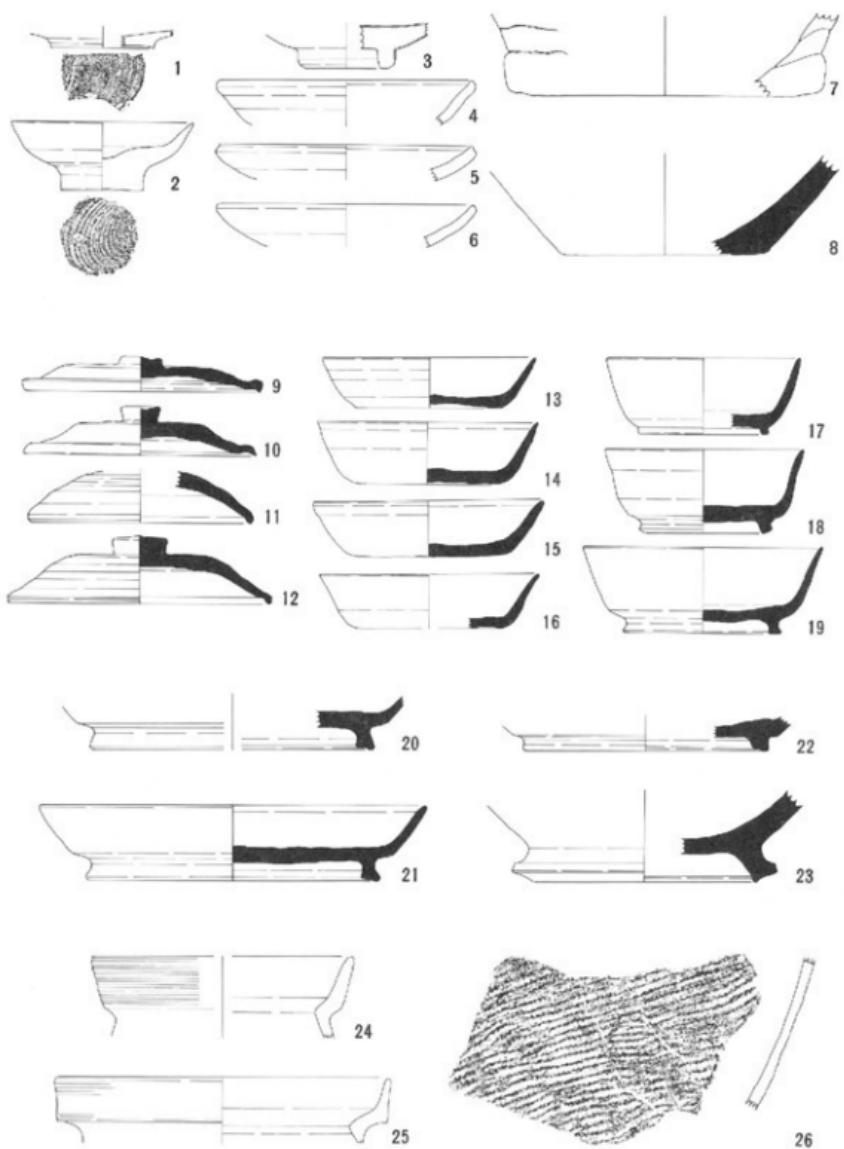
小白山山麓遺跡は淡江川上流右岸に接する小支谷の入り口付近に立地し、谷右岸の山麓を中心広がっている。今回の調査では縄文時代・弥生時代・律令期・中世期にかけての遺物が検出された。遺構としては土壙1基、溝状遺構5条、流路(川跡)2条、ピット状遺構等が検出できた。(第4図)

土壙は上部が削平されているが直径2.5mの円形を呈すると思われる。遺物としては珠洲焼の大甕、摺り鉢、土師器がある(第7図)。時期は吉岡編年のIV期と考えられる。溝状遺構はほぼ南北方向に流れ、北端で検出した谷部へ流れ込む。SD-1は幅約60cm、深さ10cm、SD-2は幅約60cm、深さ約50~70cmで両溝とも須恵器・土師器等が出土している(第7図)。須恵器の甕の内面あて具痕は同心円文・平行線文・放射状文がある。(第5図)

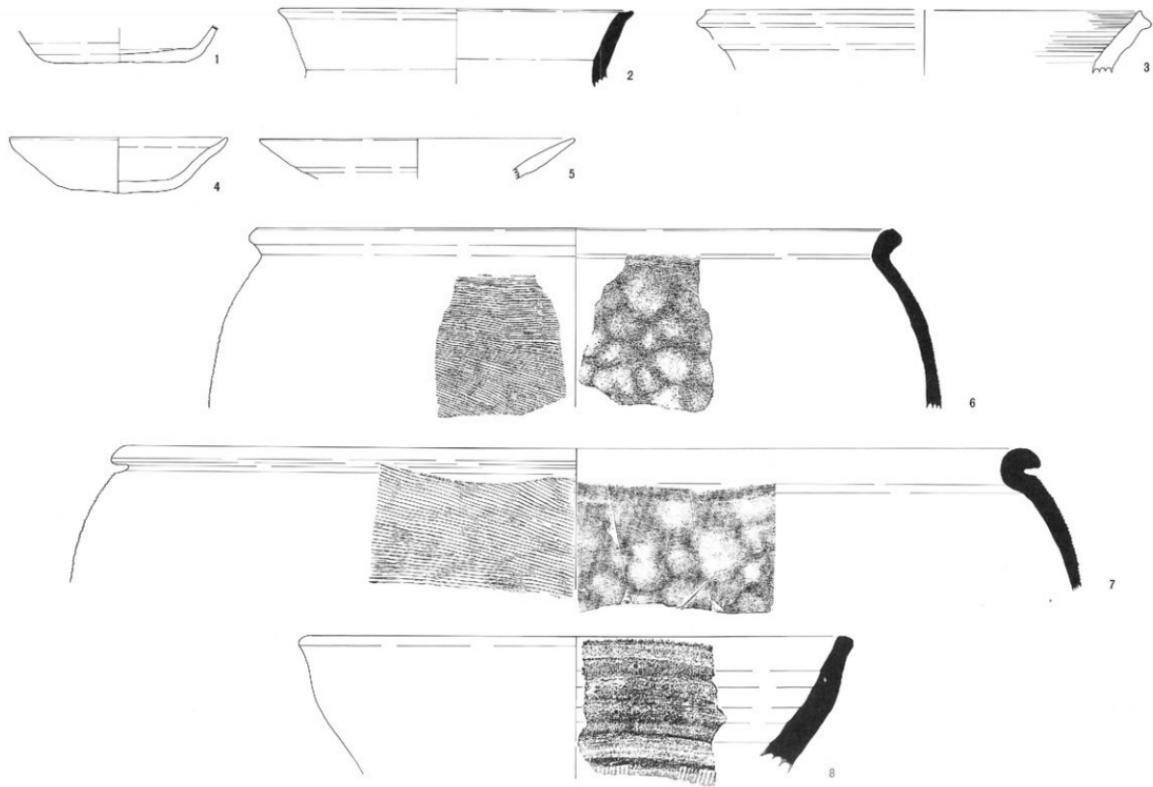
川跡は調査区の中央で1条、やや北寄りで1条検出している。中央のものは幅約15m、深さ3mを測る。他方は幅4m、深さは約40~80cmを測る。中央の川跡は縄文時代より13世紀頃までの遺物を包含するが、川跡検出面直下の黒色土層では11世紀~13世紀に至る土師器(内黒釉・高台付き椀・円柱状底部の小皿・非ロクロ系土師皿)・珠洲焼等が検出されている。下部黒色土層では須恵器・土師器等が出土しており、須恵器の器形・調整等より8世紀後半期の時期におけると考えられる。また、製塩土器は平底で下端からただちに立ち上がるタイプである。県下では約20遺跡で出土しているが、これは最も内陸で出土したものである。(第6図)



第5図 流路内出土土器(1) S=1/3



第6図 流路内出土土器(2) S=1/3



第7図 小白山山麓遺跡遺構内遺物 S=1/2 1~3:SD-2 4~8:SK-1

## 2 白谷岡ノ城北遺跡





第8図 白谷岡ノ城北道路第1調査区遺構全体図



第9図 白谷岡ノ城北道路第2調査区遺構全体図

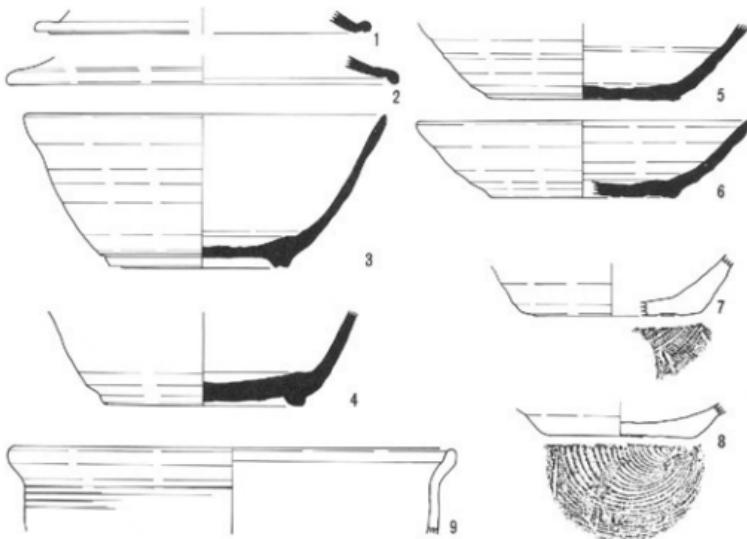
## 2 白谷岡ノ城北遺跡（A地区）の概要

遺跡は渋江川左岸の段丘上に立地し、標高は約75mを測る。今年度はA地区を対象に本調査を行った（第8・9図参照）。検出した遺構は、律令期・中世（2期）の3期にわたるものである。

律令期 検出された遺構は掘立柱建物3棟、ピット状遺構等である。これらは第2調査区の東側に集中する。SB-1は $2 \times 2$ 間以上の建物で、桁行・棟間幅が約2.7m、柱穴の掘り方が1辺1mの方形または隅丸方形を呈する。SB-2も $2 \times 3$ 間ではほぼ同様の建物と考えられる。SB-3は桁行・棟間幅はほぼ同じであるが、柱穴の掘り方が1辺60cmとやや小さいまたSB-3はSB-2より古く、立て替えの可能性もある。これらの遺構群は、柱穴・ピット状遺構の出土遺物より9世紀前半の時期が考えられる（第11図）。



第10図 律令期の遺物（P-1）



第11図 律令期の遺物 S=1/2

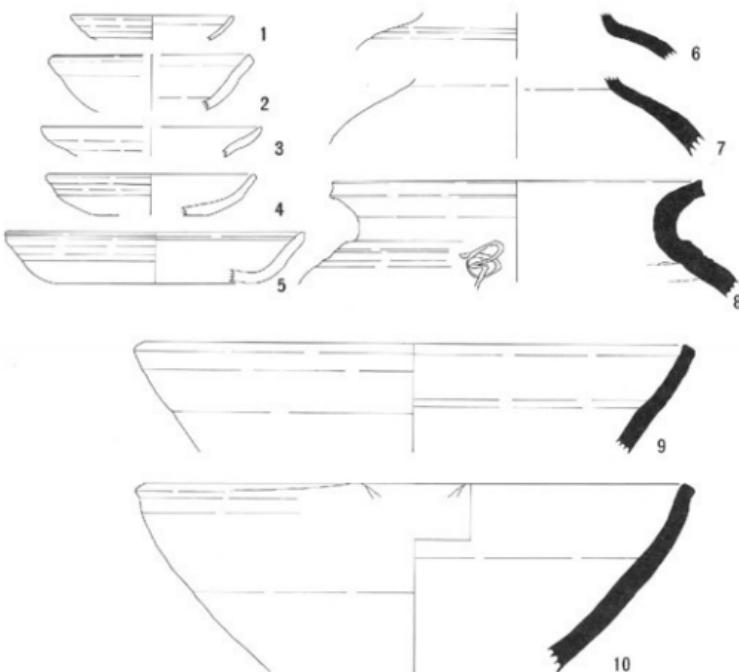
1:P-111 2:P-110 3:P-1 4:P-106(SB-2) 5-6:P-122 7:P-103(SB-1) 8-9:P-100



SK-4出土珠洲焼壺ヘラ記号 S=1/1

SE-1・2は遺物出土がないため時期は特定できないが周辺の状況より律令期のものと考えられる。

中世Ⅰ期 検出した遺構は掘立柱建物2棟、井戸3基、溝2条等である。第2調査区の西側に集中する。SB-4は3間以上×3間以上の建物で、桁行・棟間幅が2.4m、柱穴の掘り方が直径50cmの円形を呈する。SB-5も3×4間でほぼ同様の建物と考えられる。



第12図 中世期の遺物 S=1/3  
1:P-120 2:P-119 3~9:SE-4 10:SE-5

SE-4では珠洲焼（甕・壺・摺り鉢）・非クロ系土師器（1段なで面取り・2段なで技法）が、SE-5では珠洲焼（摺り鉢）が出土した（第13図）。これらの遺構群は出土遺物より吉岡編年のI期後半の時期を考えておきたい。溝はSE-6に付属する遺構と考えられる。

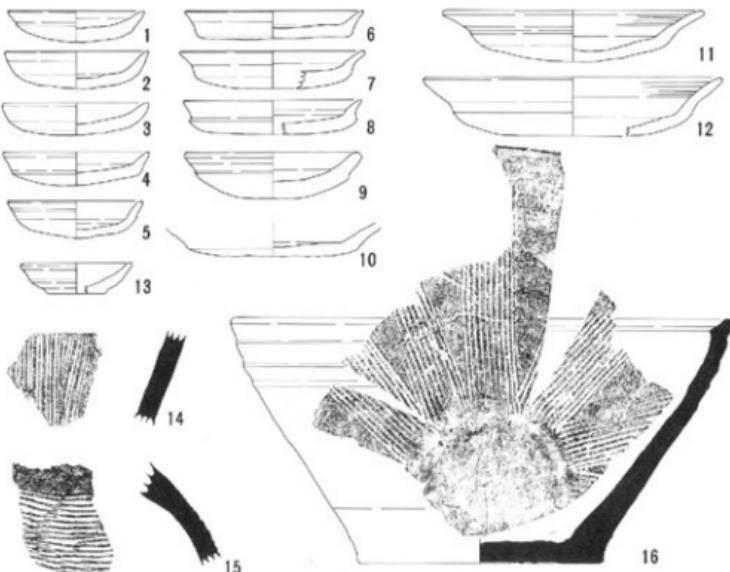
SE-6・溝内より珠洲焼・硯（第14図）等が出土している。明確な時期は不明である。



第14図 SD-16出土 線刻のある石製品

中世II期 竪穴状遺構5基、土塙7基、溝5条等である。SK-2は長軸7.5m、短軸6m、深さ20cmを測る。床面より有機物塊・炭化物が検出され、又非クロ系土師器・珠洲焼・瀬戸焼・青磁等が出土した（第13図）。出土した非クロ系土師器の口縁部は強く外反屈曲するものもあるが、多くはやや内湾し、口縁部には灯芯痕が3～5ヵ所残されている。口径は大きく皿状のものもある。遺物より15世紀前半の時期が考えられる。

また、SD-6では非クロ系土師器・珠洲焼（甕・摺り鉢）・瀬戸（灰釉）・青磁・火舎等が出土した。



第13図 中世期の遺物 S=1/3  
1~9・11~15:SK-2 10・16:P-25

これらは吉岡編年VI期の時期が考えられ、この時期を下る遺物を含む遺構は検出されていないことより、これらの遺構群は15世紀末前後には終わっていると考えられる。

## 参考文献

- 小矢部市 1971 「小矢部市史」 上巻  
砺波市 1990 「砺波市史」  
小矢部市教育委員会・小矢部市埋蔵文化財分布調査団  
1982 「小矢部市埋蔵文化財分布調査概要III」  
小矢部市教育委員会・小矢部市埋蔵文化財分布調査団  
1983 「小矢部市埋蔵文化財分布調査概要IV」  
吉岡康暢 1987 「中世陶器の生産経営形態—能登・珠洲窯を中心に—」  
「国立歴史民俗博物館研究報告第12集」 国立歴史民俗博物館  
吉岡康暢 1982 「北陸・東北の中世陶器をめぐる問題」  
『庄内考古学』第18号 庄内考古学研究会  
宮田進一・宇野隆大・酒井重洋  
1988 「越中における中世土器の様相」 「北陸の中世土器・陶磁器・漆器」  
北陸中世土器研究会  
伊藤隆三 1989 「北反戦遺跡一条里遺構の発掘調査概要」 小矢部市教育委員会  
伊藤隆三 1990 「北反戦遺跡一条里遺構の発掘調査概要II」 小矢部市教育委員会  
島田修一 1990 「臼谷岡ノ城北遺跡・臼谷竹屋橋I遺跡」 小矢部市教育委員会  
島田修一 1991 「臼谷遺跡群発掘調査報告」 小矢部市教育委員会  
山森伸正 1992 「臼谷岡ノ城北遺跡発掘調査概要」 小矢部市教育委員会

# 写 真 図 版



調査区遠景（北より）



調査区全景（南より）

図版2

小白山山麓遺跡



調査区全景（東より）



調査区全景（南より）



SK-1 (西より)



SK-2 (東より)

図版  
4

小白山山麓遺跡



SD-1・2 (北より)



流路跡 (西より)

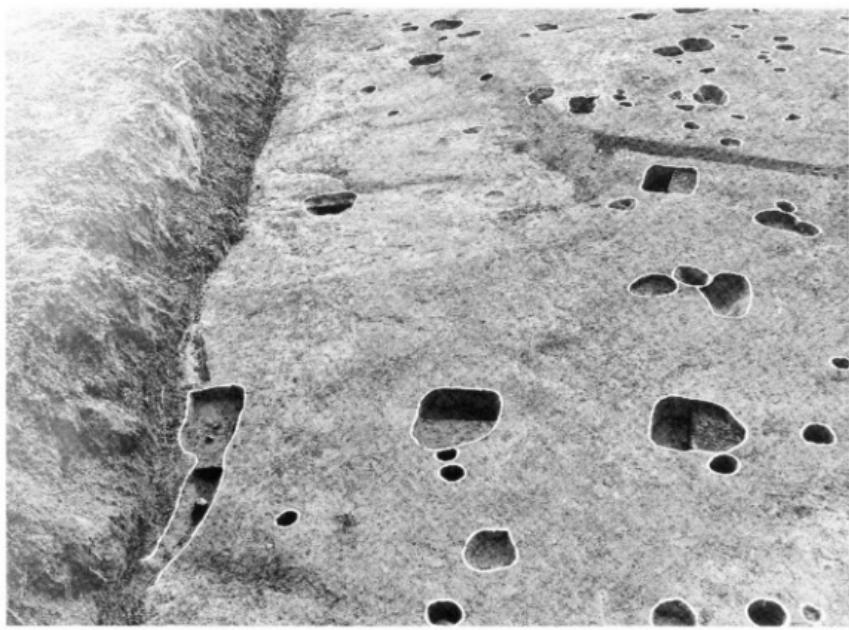


調査遠景（西より）



調査区遠景（北西より）

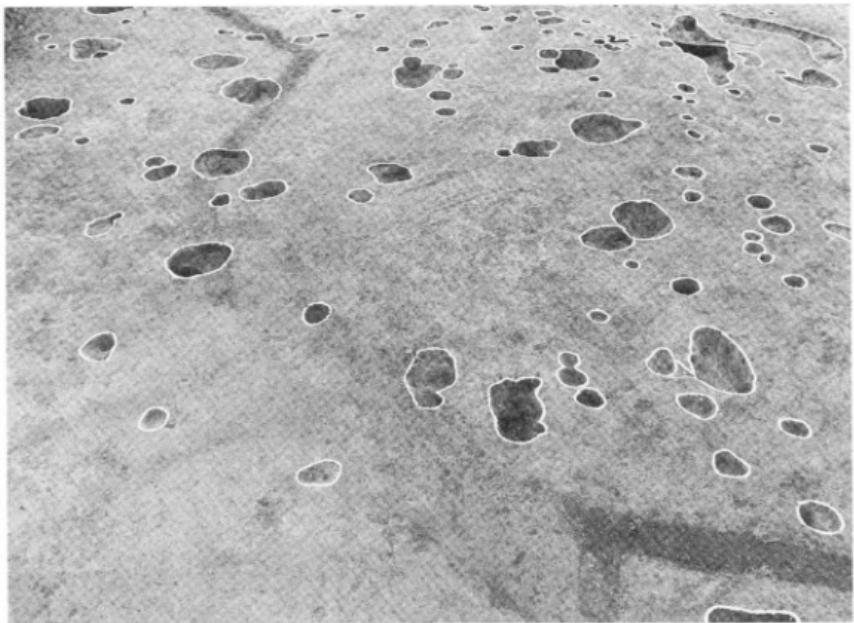
図版 6 白谷岡ノ城北遺跡（A地区）



SB-1（南より）



SB-1柱穴掘方状況（南より）



SB 2 (南より)



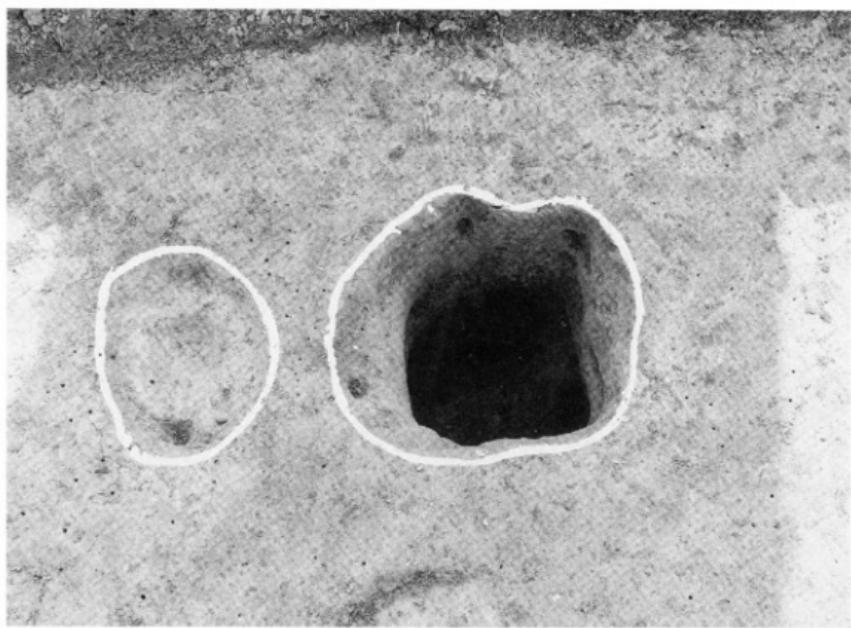
SB 3 (南より)



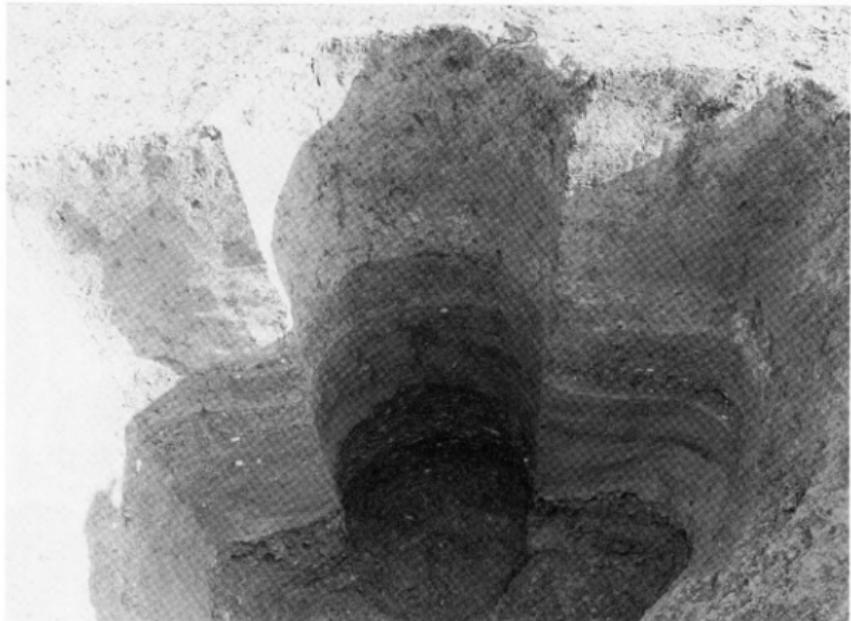
SB-4 (東より)



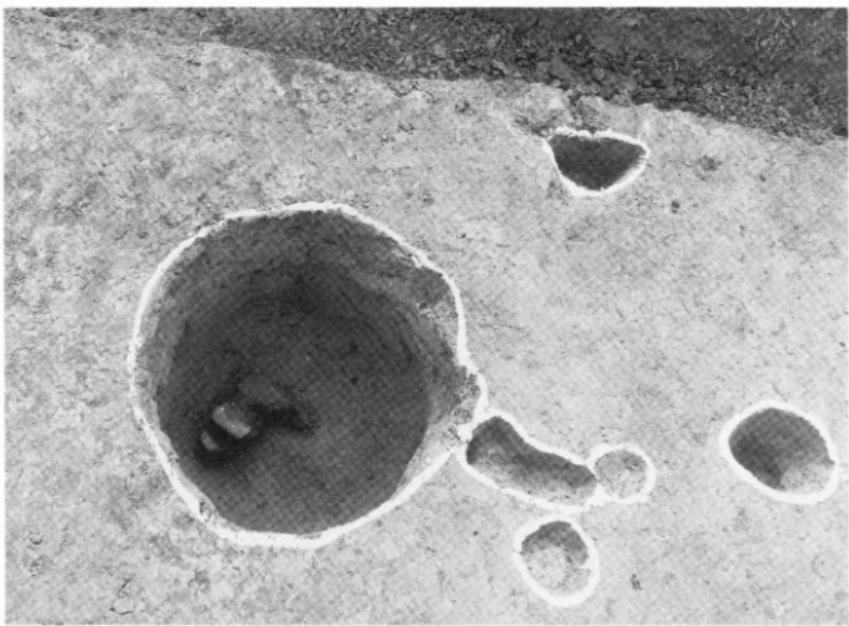
SB-5 (西より)



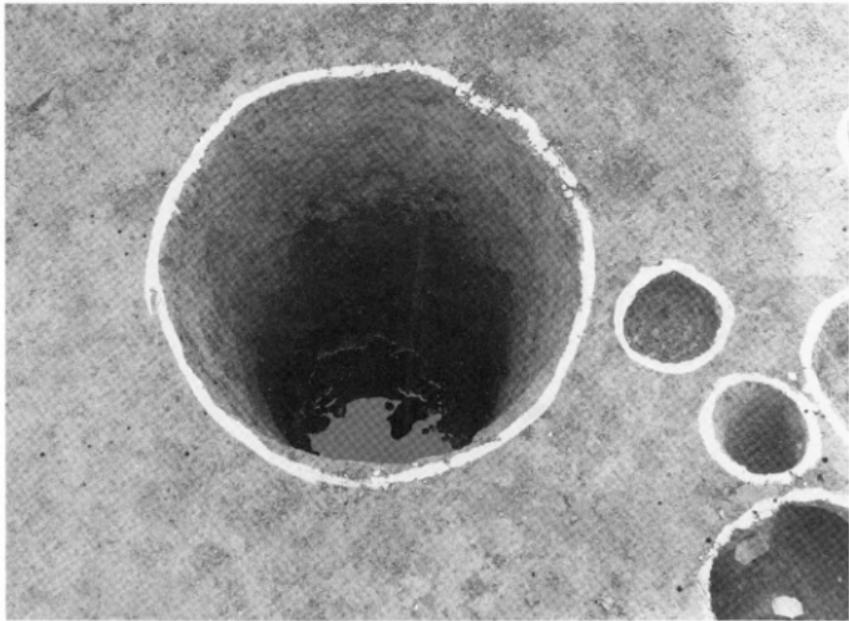
SE-1 (北より)



SE-1 (断面)



SE-2 (北より)

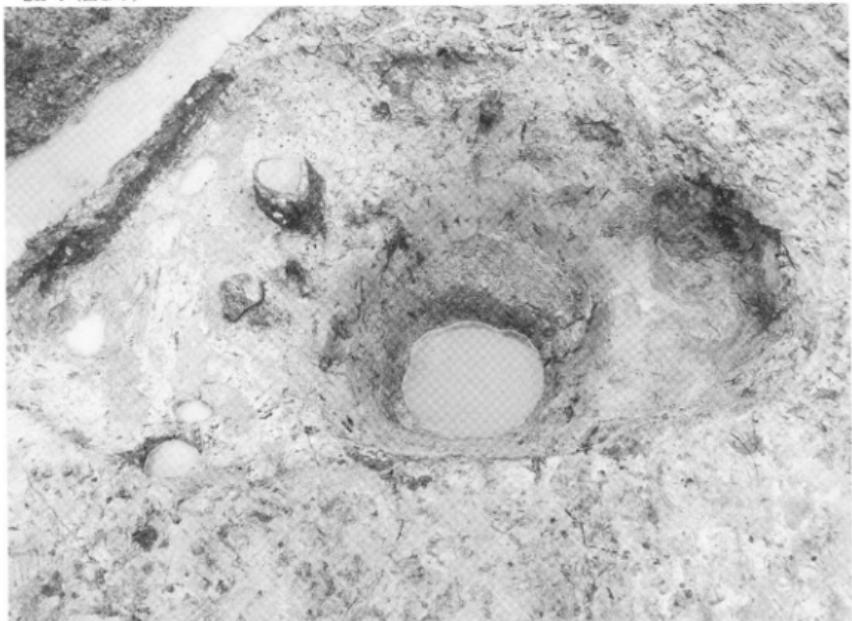


SE-3 (東より)

図版11 白谷岡ノ城北遺跡(A地区)

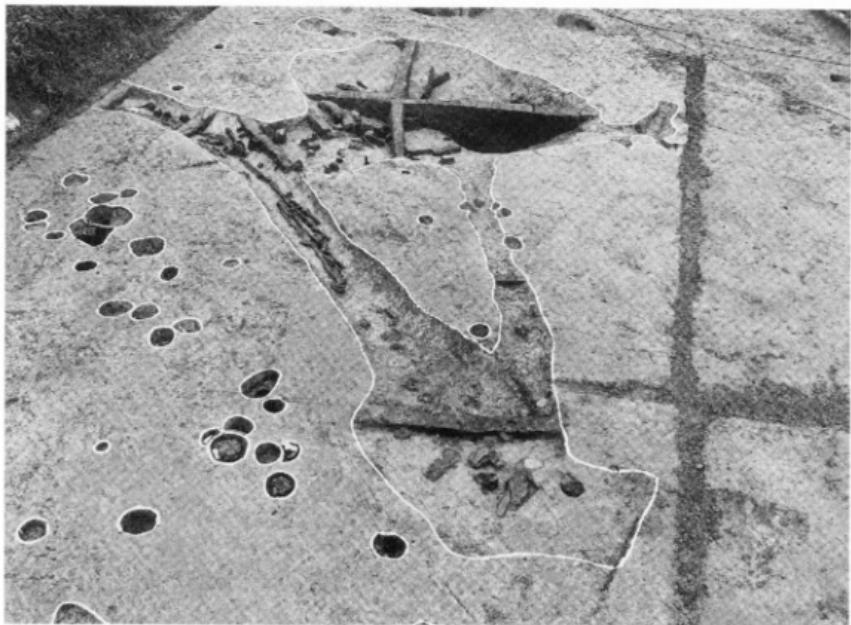


SE-4(西より)



SE-5(北より)

図版 12 白谷岡ノ城北遺跡(A地区)



SE-6 (東より)



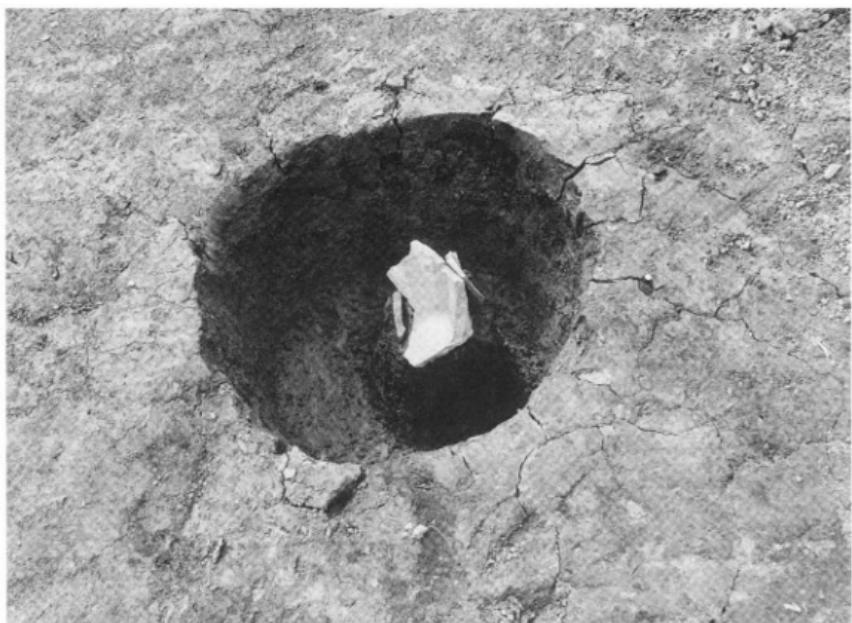
SE-6 (西より)



P-3 (南より)



R-122 (南より)



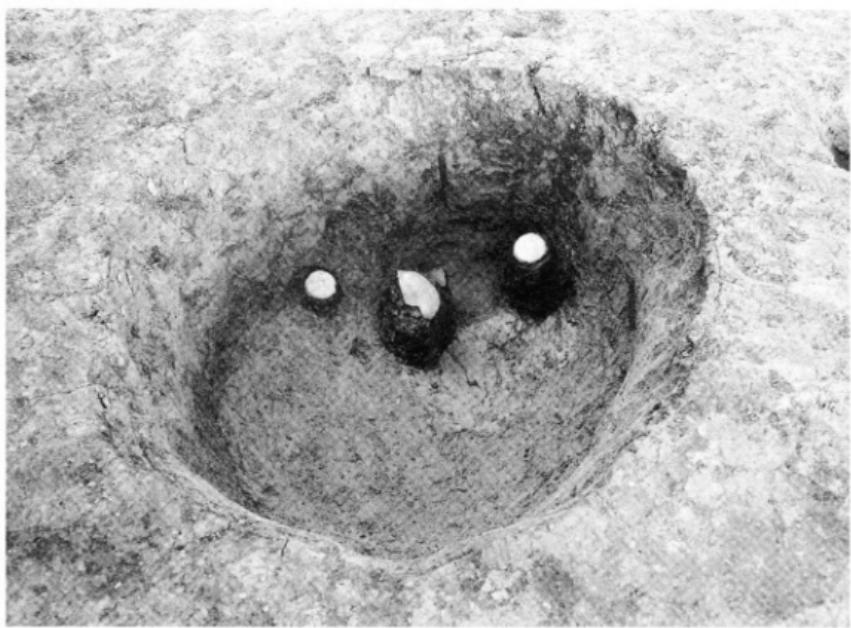
P-25 (西より)



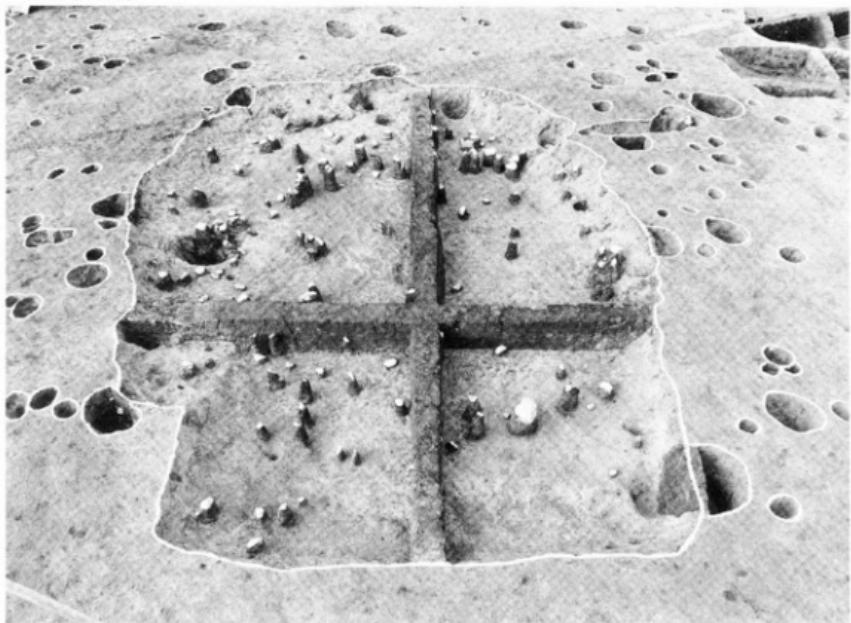
P-7 (南より)

図版  
15

白谷岡ノ城北遺跡（A地区）



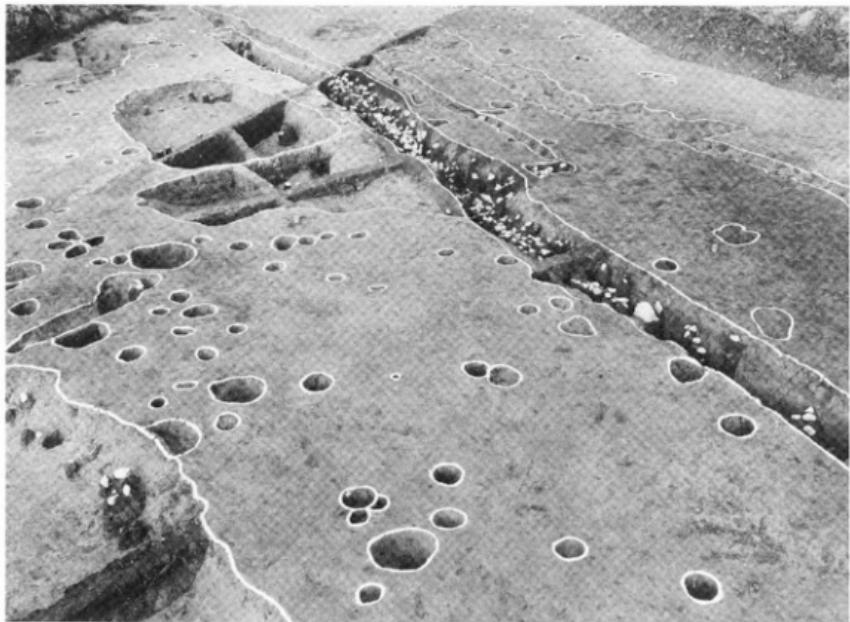
P-5 (西より)



SK-2 (西より)



SD-10 (南より)



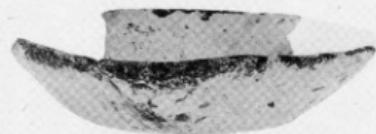
SD-6 (西より)



作業風景



作業風景



1



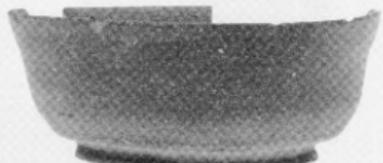
2



3



4

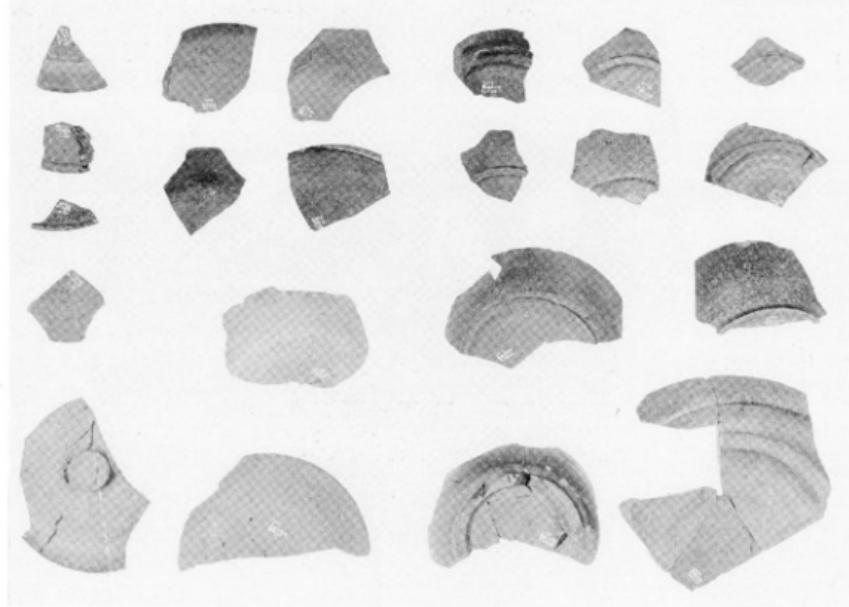


5

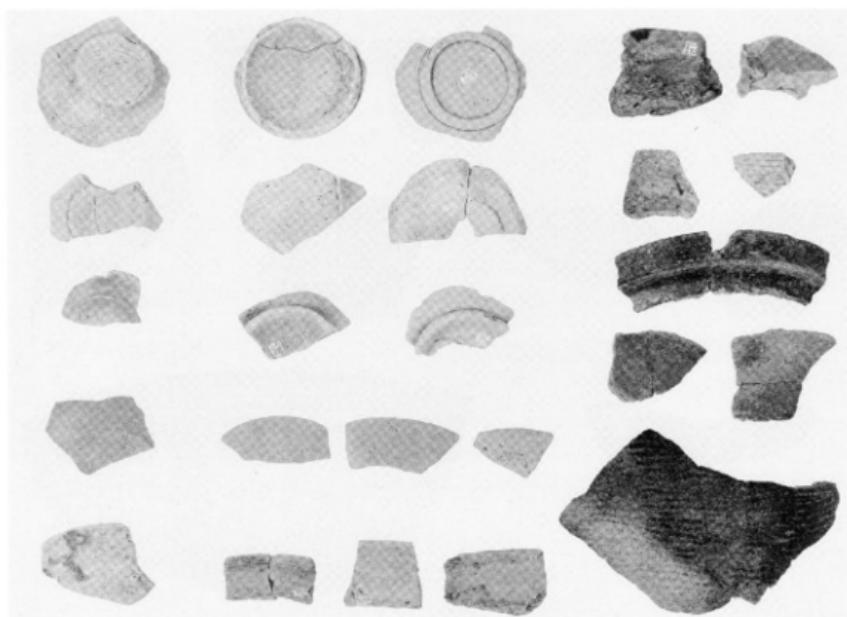


6

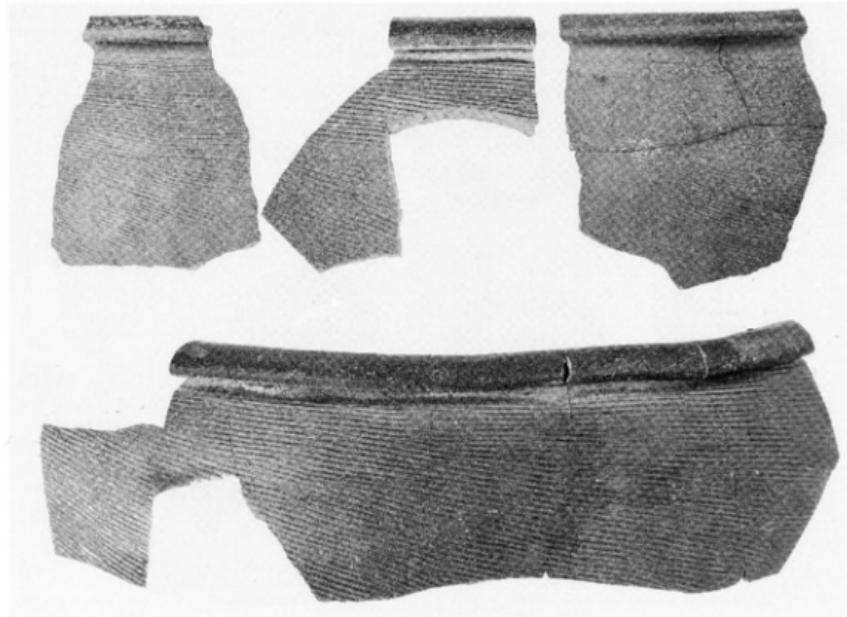
1・SK-1, 2~6・流路内出土遺物



流路内出土遺物(須恵器)



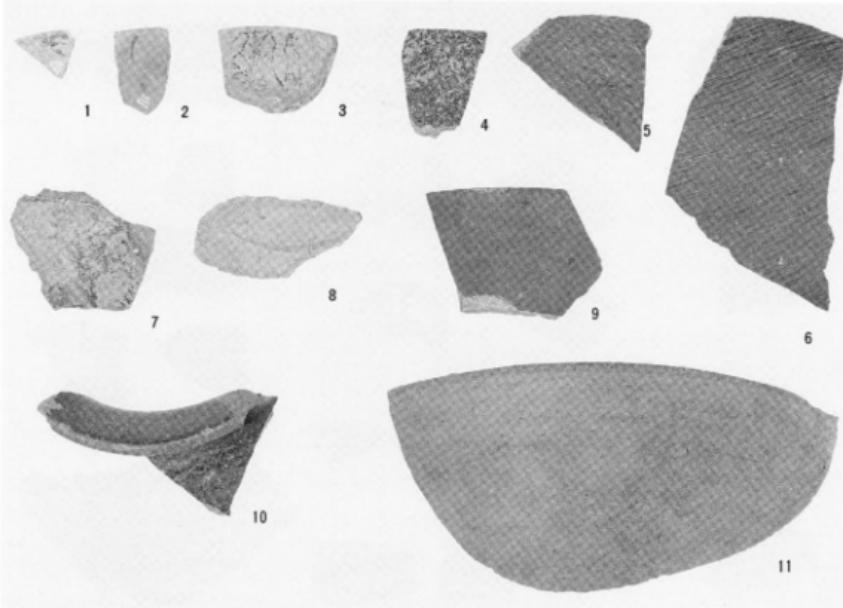
流路内出土遺物(土師器)



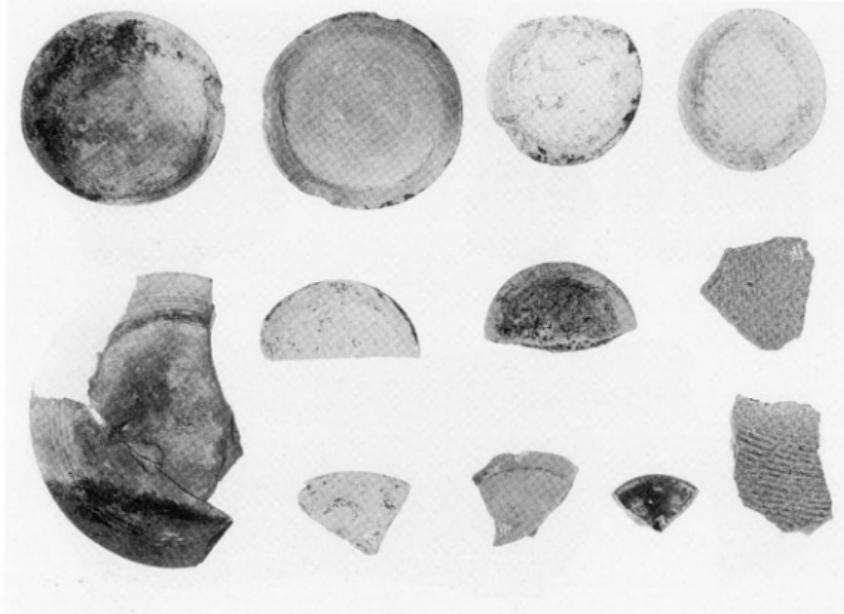
SK-1出土株洲燒

図版  
20

白谷岡ノ城北遺跡  
遺物



1~10・SE-4出土遺物, 11・SE-5出土遺物



SK-2出土遺物

小矢部市埋蔵文化財調査報告書第38冊

富山県小矢部市

小白山山麓遺跡・白谷岡ノ城北遺跡

発行日 1993年3月31日

編集・発行 小矢部市教育委員会

(〒932 富山県小矢部市本町1番1号)

TEL 0766-67-1760

印 刷 株式会社 アヤト

